

科学よもやま話

佐藤 勝昭

第18回

PDCAサイクルと認証評価

PDCA サイクルという言葉をご存じでしょうか。PDCAとは、「計画(plan)を立て実行(do)し、成果を評価(check)して改善を実行する(act)」というサイクルを意味し、マネジメントの基本とされ、品質管理の父と呼ばれるデミング博士によるといわれています。

教育現場においても、「製品」(卒業生)の品質管理にPDCAサイクルを取り入れているというのが最近のトレンドです。米国のABETや日本のJABEEによる専門技術教育プログラムの認定がその一例です。



イゼール河(グルノーブル) 佐藤 画

平成16年度からは、大学・高専など高等教育機関は、第三者機関による認証を7年に1度受けることが義務づけられました。設置の際の審査を簡素化する代わりに、設置後に厳しく評価しようというのです。

私の所属する大学は今年「大学評価学位授与機構」による認証評価を受けます。評価機構は、教育や管理運営に関する11の基準が大学の掲げる目的に照らして達成されているかを検証します。各基準には詳細な評価項目があり、大学は自己点検をして、すべての評価項目について基準を達成していることを根拠資料にもとづいて示さなければなりません。

大学では、全学あげて膨大な根拠資料を収集し、整理し、分析する作業を進めています。大学が自分自身の力で、教育を評価し、自ら改善を図ることは当然やらねばならないことです。認証評価を受けるための準備段階で、教育改善が大幅にすすんだことも事実です。しかし、些末な事項にまで根拠資料を要求することが現場教職員の負担となっています。

PDCAサイクルを整備して教育改善を図ることこそが認証の本来の目的のはずで、教職員が評価疲れで肝腎の教育に支障が出るようでは本末転倒です。今後、評価機構は、評価項目を整理し、根拠資料も最小限に抑える努力が必要ではないでしょうか。

(東京農工大学 副学長)

